

羽根田弥太元会長を追悼して

羽根田弥太元会長の足跡

羽根田弥太氏は横須賀市博物館館長を長く勤められ、発光生物学を指導してこられました。本会においても1985（昭和60）年より1990（平成2）年まで会長を務められ、1990（平成2）年からは名誉顧問をお願いしてまいりました。しかし、会長を退かれたころより体調を崩され、1995（平成7）年1月30日に88歳で永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

おもな経歴

- 1907年 岐阜県大垣市に生まれる。
- 1937-1942年 日本学術振興会の援助により南洋パラオ熱帯生物研究所の研究者として4回出張し、南洋における発光生物の研究を行う。この間フィリッピン、ボルネオ、ラバウルにも出張する。
- 1942年 発光細菌及び細菌と動物との共生の研究により医学博士号を授与される。
- 1942-1945年 昭南博物館（現シンガポール国立博物館）副館長として勤務するかたわら、マレーシア、ジャワ、セレベスなどにも出張し発光生物の研究を行う。
- 1954年 米科学財団（ナショナル・サイエンス・ファウンデーション）の援助によりサンフランシスコの第1回国際生物発光会議に出席し、極東における発光生物について講演する。
- 1955年 横須賀市博物館館長に就任。
- 1959-1960年 米科学財団の援助によりプリンストン大学及びウッズホール海洋研究所の交換研究者として渡来。世界の発光生物研究のために、北米、カリブ海、メキシコ、中米、欧州、中近東、インド、東南アジアの海洋研究所にて研究。特にフランスのアラゴ海洋研究所、メッシナ研究所、ポルトガルのマデイラ博物館、英国のプリマス研究所に滞在し研究。
- 1965年 箱根における国際生物発光学会議の開催世話人を務める。
- 1966年 上記会議の論文集「生物発光の進歩」（Bioluminescence in Progress）、ジョンソン・羽根田編集を日米科学協力事業として発行。
東京での太平洋学術会議における生物発光のシンポジウムの世話人を務める。
- 1967-1969年 ピッツバーグ大学 F. I. 辻 教授と日米科学協力事業における生物発光の共同研究によりインドネシア、フィリッピンに出張。
- 1969年 カリフォルニア大学のアルファフェニックス号によるニューギニア探検

に参加。帰路バンタ島で発光魚を研究。

1974年 横須賀市博物館館長を退職。

1995年1月30日 永眠 享年88歳

全国ホタル研究会 副会長、会長、名誉顧問を歴任

日本ホタルの会 理事

原著論文は180編を超える。

主な著書

発光生物の話 北隆館

発光生物 恒星社厚生閣 ほか。



生前の羽根田弥太先生

羽根田弥太先生を偲んで

大場信義（全国ホタル研究会会長）

全国ホタル研究会の創設時からの助言指導者として、またご多忙のなかで会長として当会の発展に尽力されました横須賀市博物館初代館長の羽根田弥太先生は、私たちにとってかけがいのない指導者であり大先達者でありましたが、大変悲しく残念なことに1995年1月30日に御逝去されました。先生は私たちにとって大きな心の支えであり励みであり、また誇りでした。先生は大変心の広い優しいお人柄で、世界的な発光生物研究の第一人者でありながら、誰に対しても常に懇切丁寧にご指導・ご助言下さいました。幅広い学識と世界的な視点を持った鋭い先見性は、独自の発光生物研究、自然保護、博物館創設などの先駆的なご業績に反映されている通りです。気さくでユーモアあふれる先生のお人柄は横須賀での全国ホタル研究大会の特別講演をはじめ、各地でご講演されたり、お話のなかにも色濃く反映されています。

私と羽根田先生との出会いは25年も前のことです。私は幼少のころから身近な生き物が好きでしたが、特に昆虫は大人になっても心のなかにいつも内在していました。当時、私は企業の基礎研究所に勤めていましたが、先生がご研究されていた発光生物のなかで、ホタルと私の関心の深かった昆虫がひとつの関わりを結び、週末・祭日を利用してホタルの研究を始めたのが契機となりました。元々昆虫が好きであった私は、たちまちホタル